

## 「福祉サービス第三者評価」等を踏まえたサービス改善計画・実施状況

施設名	友生園	受審(実施)年度 (※)	平成 29 年度	施設番号	41-0050
-----	-----	-----------------	----------	------	---------

※第三者評価または利用者調査実施の年度

項目	評価結果に基づく現状分析 (平成 29 年度)	改善計画 (平成 29 年度末時点)	実施状況(予定を含む) (平成 30 年 4 月 30 日時点)	左記実施状況に実施予定があった場合の実施状況 (平成31年 4 月 30 日時点)
職員間での危機管理の啓発、事故防止の重要性の意識付けに対する取り組みについて	ヒヤリハットと事故報告の違いが職員間で理解が深まっておらず、ヒヤリハットを活かし、事故を防ぐ取り組みに至っていないので、未然に防ぐシステムの構築及びさらなる職員への意識啓発が深まり、事故予防の意識が職員に根付くことを目指す必要がある。	リスクマネジメント委員会でヒヤリハット・事故報告書の強化に取り組んでおり、再発防止と予防に向け検証を行っているが、ヒヤリハットと事故報告書の違いが職員間で理解が深まっていないことから、事故を防ぐ取り組みにまでは至っておらず、未然に防ぐシステムの構築及び職員へのさらなる意識啓発を深め、事故予防の意識が職員に根付くよう取り組む。	1 実施済み ② 実施予定 (平成 30 年 6 月ごろ) 具体的には以下のとおりです。 ヒヤリハットや事故報告書の集計を行い、その結果を基に職員間で確認検証を行い再発防止と事故防止の強化を図る。また、未然に防ぐシステムの構築を目指す。	① 実施済み (平成 30 年 6 月) ヒヤリハットや事故報告については提出のたび、対策をたて再発防止に努めています。6 月より 2 ヵ月に 1 度、事故を未然に防ぐための危険予知訓練シートを全職員が活用し、職員会議にて意見交換を行い、意識の改革を図りました。
研修成果が具体的に実務に反映されることの必要性について	研修成果の共有化を図る仕組みは整っているが、研修成果が具体的に実務に反映されていることの確認ができていないので、中堅職員の資質向上と併せて組織強化の必要がある。	目標管理シートや秋田県福祉保健センターの福祉保健研修カードを活用しながら、職員の研修成果が具体的に実務に反映されるよう、中堅職員の資質向上と併せて、組織の強化に取り組む。	1 実施済み ② 実施予定 (平成 30 年 5 月ごろ) 具体的には以下のとおりです。 目標管理シートや秋田県福祉保健センターの福祉保健研修カードを活用しながら、中堅職員の資質向上、組織強化、個人別の育成を図る。	① 実施済み (平成 30 年 11 月) 目標管理シートや研修カードを活用し、中堅職員の資質向上を図るため、計画的に研修に参加してもらっています。また参加した職員を講師として数回に分けて全職員を対象に研修報告会を実施しました。
将来的に施設運営の要となる中堅職員の育成について	将来的に施設運営の要となる中堅職員の育成が喫緊の課題となっており、個々の職員に合わせたキャリアアップ研修の不足や、中堅職員の意識の問題も併せて、幹部職員の OJT(現場での研修)への理解不足を解消する必要があります。	個々の職員に合わせたキャリアアップ研修への参加、幹部職員の OJT への理解不足の解消など、組織強化に取り組む。	1 実施済み ② 実施予定 (平成 30 年 10 月ごろ) 具体的には以下のとおりです。 キャリアアップ研修への参加を実施し、幹部職員の OJT への理解不足を解消するため、さらなる組織強化を図る。	① 実施済み (平成 30 年 10 月) キャリアアップ研修への参加を実施しています。また責任者会議・職員会議において中堅職員への意識改革を行っています。平成 31 年度より新人職員の OJT としてチューター制度の導入予定です。

※この様式は、「東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助金交付要綱」等の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※第三者評価(又は利用者に対する調査)の結果は、施設において公表しているほか、「とうきょう福祉ナビゲーション」によりインターネットでも閲覧できます。